プロ独一世界共産主義の勝利へノ 産 主義者同盟(戦旗派) 9 月 3 日 \$月3回 3の日発行 第 3 〇 7 号 環境発行人 底島 - 吊

一部 50円



のかという問いとまた「基命的網 命左翼の主座」を一体とこが担う 砕石翼の主座」を一体とこが担う 砂石翼の主座」を一体とこが担う 砂石翼の主座」を一体とこが担う 砂石翼の主座」を一体とこが担う

期 ボマル 派は、一春間―反会闘 や とりわけ、萬共同回派の述にと 略

| 路線」に基づき「寄左翼」中間誘

市場内部におい

おける経済主義、他方におけるテ 革命的成果、とりわけ、『五・一 1000懸争によって獲得された 湖流の日和見主義的堕落(一方に スム)との難いを敷め、〇〇

すなわち、現代帝國主義は、

戦 ૮

漢』と『日和見主義的潮流』の区 | 幸」と称することによって民間的

すなわち、わが問題と反帝戦得

I

今春-夏闘争の

得

した地

日米両帝団主義の共同以降 日米両帝団主義の共同以降 地に上日春の保持が高かの地応とおける、財主義世界体制があの地応より 場里市後世界体制がありませます。 明皇帝の皇左帝位を獲して、財業の皇を後を担いたによりる、帝日王義諸国が共たによりる、帝日王義諸国が出た。

・ 産主義運動の分裂、スターリン主 チ 存在するにもかかわらず、関際共 基案の危機」という客観的委件が は、主義の危機」という客観的委件が は、主義の危機」という客観的委件が は、主義の危機

●を基底にしつつ、●日帝は、日 結に向っているのであり、更に、 和共存政策たる「東方条約」の締

による アジアの 現状権

9月16-19日 狹山差別裁判闘争 9時 日比谷小公園

三里塚を闘う人民大集会 9月16日 日比谷公会堂

窓の解決を、プルジョア競会内における政権を らの補兇物と化し、又、「高度に高度した資土 社会党・共産党、(総じて議会内署党)は、一

の更なる拡大・深化」のなかで、

として進行しており、更に第三に ます、米香は、●「ソ連」とし

今秋期闘争

の大爆発を実現せよグ

果を踏まえ

の屈服を敷効しつつ、「喰化させ、場的関係についての確信)をこを敷し

ながらる一層鍛まっていく」帝国「確認し、国際自着質問整を行なっ」る。

ならば、帝国主義が統一的世界市」による「より一層の共同の帰取と の極性化についてつけ加えておく「貴」の議政策も、今世民帝国主義 文、東に帝国主義の経済的危機「文、その手」直した「恐怖の均

田中政権登場の政治的意 と社共一人民戦線派の

屈服 義

り太震的には、日本国家の総合力を開発することによって、自己の侵略更素命の条いという、彼らの「現実的危機」の現れであり、このことを定面数師としつつ、よ板がすでに、旧来の伝統的変配機式によっては自己の変配を終対することができな 自己の延命を計らんとしている。田中政権の一見「進歩的」な態度は、日本支配階

的かつ、駿鷹时に対決していかなければならな 年死刑判決領動」に対して、社・共の随窓と中 ののでは、日帯の人民攻撃の要たる「相極限 があった。

行一石川青

国主義の根底的危機の内臓をみる

これらの諸特徴の内に、現代帝、基底に、❸西独帝は三

■ 深化、拡大しているのである。

遊行されており、その矛盾は、一 被抑圧民族(人民)の犠牲

内政問題にのみ、つまり、ペトナ

の打開」を掲げて破場した。田中|ならない。つまり田中政権の破場「よって、社共、調会内野党を総合「官僚政治打仗」-「外を延輝」福田を具着て田中を兼へだのに他「舞」「独自刈街」を掲げることに

国際共産主義抗命

政権は、その政権の基本政策とし

わち、●工業再園蟹による産業の

そして交、この政権こそ「民族主 実の表現に他ならないわけであり こそは、今日の日本資本主義の行

ます、日本列島政治論なるもの を学んだ政権」なのである。

と日本帝国主義の危機的現一整備するところの、

「極めて低険

人民的牲権を強め、「侵略反革命」「人民知は、かかる形で社・共を議会の職术に縛りつ の類を撤き散らし、その体制内的性格を強さ

寒による 「沖繩 返還―自衞隊 丞」 更に「沖繩春運」の政治路察上の

る政治設領技さの精神主義(差っ 破账を『乗事問題―建策路探』な 子供じみた、排外主義的動員と、中核派は、「K=K連合」なる

と一によりて組織日和第三種的に乗り

「右翼日和見主義」の合理化を

しては 「七・一五 北線本 現地圏 以該遊撃機関」の暴力的賞徴によ 配・プロ 独派は、日帝の びについて、

財産な解答を与えた

ロレタリア人民に自己暴露したの 菱的政治そのものの展開でしかな みで、「ベトナム反戦」も組合主 け水ぶくれ的肥大化に純化するの

> 治療争を戦闘的に闘い抜く、一 系統的機関に基づく、全人民的数 義を血肉化し、共産主義的政治の

5以上、その経済主義的=日和見

京城命戦争) に向け懶進しうる」 以外、「七〇年代を蜂起ー内戦(世 からの逃亡は悪だしく、われわれ の原則的な全人民的政治闘争展開 であり、他方、中国語動物の 戦器、蜂却・プロ独派であったの 的に担ったのが、わが問題と た」の攻撃の全温程を接も い抜いたのである。日米両帝国主参」によって大衆的、聡鵬的に薦

という。全くの合法主義に転落し 破防法を適用されるからや





東、二十三年的 師、米南田書、れくモンで書館和報書、単生 人への ・ 本と報知・山海県書籍版は、田の内は一人の最等表決多を、米崎 ・ 東京の大の東京大の長年の大の「一一一一一」との ・ 東京の大の東京大の長年の大の「一一一一」との ・ 東京の大の東京大の長年の大の「一一一」との ・ 東京の大の東京大・大会議員は「一一三一」との ・ 東京の大の東京大・大会議員は「一二三一」との ・ 東京の大の東京大・大会議員は「一一三一」との ・ 東京の大の東京大・大会議員は「一一三一」との ・ 東京の大の東京大・大会議員は「一一三一」との ・ 東京の大の東京大・大会議員は「一一三一」との ・ 東京の大の東京大・大会議員が「一一三」との ・ 東京の大の東京大・大会議員が「一一三」との ・ 「一一三年に乗りかかっ、「一三」と、 ・ 「一一」に、「一一」に、「一一」に、「一一」に、「一一」に、 ・ 「一一」に、「一一」に、「一一」に、「一一」に、 ・ 「一一」に、「一一」に、「一一」に、 ・ 「一一」に、「一一」に、「一一」に、 ・ 「一一」に、「一一」に、「一一」に、 ・ 「一一」に、「一一」に、「一一」に、 ・ 「一一」に、「一一」に、 ・ 「一一」に、「一一」に、 ・ 「一一」に、「一一」に、 ・ 「一一」に、「一一」に、 ・ 「一一」に、「一一」に、 ・ 「一一」に、「一一」に、 ・ 「一一」に、 ・ 「一」に、 ・ 「一、 ・ 「一、

機動隊の

襲撃を糾彈

す!!

を繰めつつあったインドシナ戦争ルタンは、当時すでに提紹的機相 フランス海軍二等兵費アンリ・マ

数し、石を、爆竹を投げ、歩响の り、ゲートを市民自から実力で解 ゲートのとびらのクサリをぶち切 正面に結集した二千名の市民はゲ

- ト守衛室にたてこもま

反戦米兵、松田師に対する



雀

その聞いは **人民の願い** 神趣の日米共同反革命前級基地化 武装逆撃戦をもって対決しぬいた|要があるであろう。 **加担を、われわれはあの五・**

我々は理念だけのプロレタリア

ず、断平たる地力闘争をもって、一つづけて手をだすとともできずに一

つづけに繋竹がたけられ、黒敵な 終った市民は全質が機動隊につめ 酒粕を深め、機動隊の上にはたて かかり、更に一名の逮捕に対して

起い

一帯のために前進しなくてはなり
一帯のために前進しなくてはなり

運動の市民の前への登場です。

な数で前途をする、民主的な青年

ーンを始めたのである。

以来伝統的(?)な区トロキャン以来伝統的(?)な区トロキャントの登場

民と民主勢力のきり難し、機動除

の弾圧のチャンスを作ろうと必死 切り明くため、からゆる機能者

「一般市民」の追求、罵倒

ません」と、暴力学生ートロッキ

ないというしろものである。ばかなどビラの文中には一句もでてと

の無機をもり指機機能板の中に見一思さの場情をするのではたした。一水、無楽術機楽の攻撃にもくっせ「神力は指導する市民に異様」され、まればからか、「中民を通りた、治時にとのすシアにおける非大、国際主機、音楽だらのペキナケ人、|※原止の動い、集楽師のテロリン「くの作用によってらめつくされ、「の現著をはねのけて、非常差異した。 とを明らかにする必一さにそのような任務をおった我々 あの十四日における、M1 を始めとする革命的左翼の囲いに ト前の十字路は興動隊・変通警官

のデモ隊の上には 線を先頭とする青年労働者、学生 十字路に登場するわが日本反荷船 るデモンストレーションをもって

れるのである。 バレく」と圧倒的な声援がよせら

労働者の手に解放されて 機動隊を市民自から、独首メ

にかしくて反論する気にもなれないが、しかしてて反論する気にもなれないが、しかしてれだけは言っておこう。日共民者が何を言おうと、

また一八日には、今度はゲート ト前の大**通**りは学生・

民は、いったい戦車輸送阻止を開毎戦ゲート前に結集する数千の市

っているのはだれであるのかを好

全国の労働者、学生、市民の皆

二七年間の長きにわたって

更に十七日、数千の市民は権力

後世界体制の崩壊的危機 | 定]の精動から危機な

日米共同反革命の強化

IM 数(特にソ選・中国)の帝国主義 主体的条件の危機的現実の更なる 左翼の腕いが極めて困難な局面を 機後世界体制における帝国主義

をうに、より新たな形での、世界 中和共存」という秘密の、 ピアロレ 本和共存」という秘密の、 ピプロレ 本

かる事態が実は、全世界プロレタ しかしながら、われわれば、か トの蘇命的登場(未だ未形

で、ては、機能的インフレ、公費をして、ては、機能的を受け、人れぬ程、高まっておか、場合、特に、すでに、「可養品的、機能を受け、人れぬ程、高まっておおり、他でをうち、「よの最後の注」に一定の女上、したるの後の注目、「この女上、「よの最後の注」に一定の女上、「より変化」とを当時

そ始めて生みだされたものである ン主義の顕服として存在してまた とのことに示される事実は、日

貼りをみせ、特に国内支配におい野において、国内一国外とも行き 本プルジョアジーが機後世界体制



命左的翼の排除に血道をあげばり 批判され、もちろん市民の願いか 我々を光頭とする革命的左翼に 明止など どとかへ ふきょ られ、社会党にすら水をあけられ ちょうと蒸マルのように) 我々薬 のまきかえしを肝らんと、 彼らは「米郷と日本政府は、 前の問いのへゲモニーを

キチバッタで今秋期をもちこた。 争を前面におし出しキチ (基起) 時間もすると例のナップザックを れたころノコノコ登場し、 前進。紙上で全国基地振体 いいう彼らの路線は、早くも

同時に犯罪的なのは中核派の様 あり、彼らは草マル同様、単

の強化を意味するものでしかない

の一部を、工場移転、公害対策に **りれる、大独占企業を、援助** と機構し、ゲー

三里塚同様、単なるカンパニア コと家路につき、市民の失笑を買 ト部活動家の空気入れのみを喋 とし、本気で戦車を阻止 のために十七日夜半

(四面へ続く)

発」「全国交通網の充実」の結局 倒的難いを伝え聞き、

エマル・中核、そして社共人民般 ちくだく我々の聞いは今大きく様 た我々の、そして市民の

相模原の地における戦率、簡事

周志諸君、敗権力の手に奪われ

ナ基命戦争は全世界プロレタリア

は満身の怒りをこめて糾弾する。 略反なせていったことに対し、われわれ の地に

に入っていた松田正眼師に対し失ートナム反英命戦争の、そして、米彼をつれざり、彼と共にハンストーて結構した相模原市民に対し、ベ

て結集した相模原市民に対し、ペーを越えた反戦―反帝国主義の結合

イキに入ったのである。 松田正腿師と共にハンガーストラ

決して許すことなく、流された血 物の凶暴なる、反革命的な攻撃を もれわれはこうした日米帝国主

の相模原における米戦車のベトナ

ゲート守衛室は市民、学生の手

養本国における我々の日本プロレ

の任務なのである。

それに対し、そうしたベトナム

あがなわせるであろうということ

をはっきりと無言しておこうでは

人民、そして除内より決起せる基 ム験送を実力で阻止しぬく動いを

感も、数千の市民に守られた我々かされ、あわててかけつけた機動

相模原米數車輸送阻止關學へ結構

命的兵士と聞く連帯していかなけ

全国の労働者、学生、市民の皆

を支明し、集会のあと、反戦僧侶との全存在をかけて闘い抜くこと 米戦車を阻止せんと決起している われわれの願いに連帯し、彼自身

である

れに対しテロ・リンチを加えたの そればかりか、かけつけたわれわ

授をうけながら、その場で集会と

たい。日米の共同反革命の選行に

断乎として対決してゆかなければ

向けた戦車輸送実力阻止の置いを ナ解放一部命戦争を聞いぬいてい 血まみれになりながら帝国主義者

いに対し、我々はこのベトナムへ

ションを行なっていった

投げつけ、正眼師に重傷をおわせ

明も子測されるほどの重傷をおわ 帯の犯罪性を、難効し、ベトナム

別裁判糾弾闘争の現長階 守勢から攻勢へ--狹山差

大柴的糾帷闘後の 高揚と客観的事実が暴露され

う方針の誤りにより、否定的な側 ような形での石田青年への李護と 営工客をのものが、当初から、既 ている傑を組分攻撃を患取りする

は、こうした日共宗非護団の犯罪 は、至山地方に勢者の現郷形式でして書かれてあるのである。我々 んを選めた所から出ており、これして書かれてあるのである。我々 んを選めた所から出ており、これ 大に美校さ

」と真実の舌白を給めていった。

驚いた石川青年は、昭和三九年九月に開始された第二郷間頭、「俺は殺していない **た剣決文に象徴的に見られる崇削裁剣を執行され死刑剣決を受けた。事の意大さに何らの難問も抱かぬ縛和地裁により六ケ月という原例の早期祭迚と、美別に携ち** というには、第一条において、緊緊権力の実別が個別によるデッチ上げられただ川常年は、第一条において、緊緊権力の実別と同じより、殺人処としてデッチなっないということである。 常徳に対ける参加と機関により、殺人処としてデッチなっない。

次。それは、郷一番

を迎え、昭和四

三年二月、裁判は大詰め

十数回の公剣を選ねている。

恋か

に して願かわれていることも勝まえ。 費 いが、同時に公別願季が、こうし 概 で言初における否定的事実を京服 が に して願かわれていることも勝まえ。

ものであり、具子知らずの石川青 をじめた跡があり、くい違ってい知りの犯行であることを集付ける」ことになっっているが細ひもで音

5

たな事実調べな要求していった。 した衛星主義者の立撃と続く指摘し、新 種様されんとしている実任 たな事実を続く指摘し、新 種様されんとしている実任 の事態を続くとして、緩却 現々は、九月納密路製の集

は では、九月結準路線が無烈に した帝国主義者の攻撃に十分攻撃 した帝国主義者の攻撃に十分攻撃 は、九月結準路線が無烈に

一時中断されていた公剣は、

・昭 も石川青年に死刑判決を下さんと

ら、死刑は重すざるといった全く

この事件が、密落差別によるもの

か 今で、一巻に攻勢へと転化すしめ 判の 的に展開されがらであった公剣圏

長の抗機を、退症させることによ動的に裁判を押し導め、期田委員

たものと、脅迫状の起草能力とで

かなりの差がある。

・ 動揺りつつも、一切を隠蔽し、反 へたように、非議団の仮定差提出に 国の公判で見せ い

しの衝たな皮肤へと入い

教育人に、精神風帯の相当な難い 明らかにしてきている。頬数問題を合人に、精神風帯の相当な難い として、石川青年の無寒を一層、教育るものである。」と言い、そ一年の自日と冬親的事実のくい述い

(上を石川青年になぞらせた懸い さんとしている。とりわけ十一月 上張があり、警察が削もって悪い 皮、石川青年への死刑の剣決を下

例 「共波の反動的訴訟指摘は、強化さい」 さんとしている。とりわけ十一月 1

被告人に対して死刑の判決は情決

七月公列において、野たな願いへ

一部から言って、その様

その様な徴悩はな

ののごとく書いてあるが、

いというものである。

に出た表土の問題である。

こうした意味からするならば、

❸は番頭状における旬読点およ

校さんを粉密後、平穴に連さに開

縉

粉

臍を却下したことにみられるよう団による噺たな脏人申請と証拠申

拍していったことに対する何らの

を放棄合実験体制へと動員せんと

助傷していくために、後継国のブーフ建業は、軒並みに何素を強い 国家」の舎威から共同して市場を一品にまで打撃は及んでいる。グロ

ルジョアジーを共同反叛命の枠内

島、人工意味、サンダルといった

発売を受けていかんとしてい
 発売を持していかんとしてい
 発売を持していかんとしてい
 発売を持していかんとしてい
 発売を持していかんとしてい

く「野寒病は晩秋光別だ」な

米帝と | 兵間止動争と聞く粘合したもの

母親三元秘書、父親三建築 Tシニア・ハイ・スクール本 MOUNT PHEA SE 職務・エレクトリシアンズ

られ、さらには、七・二三東拘靼

日本人民 を一〇〇%を 持しま す。 職事の機談を阻止する日本は考えられないほどです。 爰に イナー・

得ず、高落無放戦争を民主主義戦

られ、特裏関税の下、他の皮基製

戦

九月結響—十一月死荊剣決をなさんとしている。我々は今こそ、七月公剣の地平をを喰行し、闘う密塞大衆と、石川青年への藤圧・分断攻撃を喰化することにより、 と表明し、早期結構路線を歩んできた非波は、反動的疾訟指揮を極わめ、美別数列に重大な局面に突入している。昨年十一月以降、何が何でも自分が列決を下すんだ、原山差別裁判糾権闘争は、裁判表非故の十一月烽年決官を目前に控えて、決定的

報告主義等のようした民族の日教院を提手、各族の日安美して、完成的日本と 「大学」というというと、「大学」というない。「大学」というない。「大学」というと、「大学」というない。「大学」というない。「大学」というない。「大学」というない。「大学」というない。「大学」というない。「大学」というないうない。「大学」というない。「大学」」というない。「大学」というない。「大学」というない。「大学」というない。「大学」というない。「大学」というない。「大学」というない。「大学」というない。「大学」というない。「大学」というない。「大学」というない。「大学」というない、「大学」というないっない。「大学」というない。「大学」というない、「大学」というない、「大学」というない、「大学」というない、「大学」」というないっないっない。「「大学」」というない、「大学」というない、「大学」というない、「大学」というない、「大学」というない、「大学」」というない、「大学」」というない、「大学」」というない、「大学」」というない、「大学」」というない、「大学」」というない、「大学」」というない、「大学」」というない、「大学」」というない、「大学」」というない、「大学」」というない、「ない、「大学」」というな

季本として字を書っていたという

らなかった石川青年が、磐追状を

の海村、

事実があること。そして学体の定

追状の文に似て勢かせ、その中のまらぬ石川青年に、一字一何を脅

をかちとる論にも、 井波に対して 大は、八月事実構理打ち切り阻止

ープルショアマスマミが一体となった東京高数―拘護所―警察

べく大梁的腕いの爆発をからとら

ばならない。 我々はこうした帝国 って、九月結婚―十一月死刑判決

そしていくといった全てのデッチ 一番似ているものを取り出し修定

つぎ、八月二六・二九日の公判院季を一大突破口として秋炯狭山闘争の大爆発

人民の願いの炎で焼き

おける觀いも、必然的に断たな質をもったものへと転化、荼腰せ

八月一五日の埼玉、精和地敷川皷支部に おける公判に おいて こうした法廷内の願いと結合すべく願い抜かれる法廷外に 問題が、新たた難いの既略への埋入を宣言していったように、今後の願いは、 を克ち取り、東京高素―拘護所を、戸万のプロレタリアー-

プロレタコア人民の娘大な力で粉弾し、文字港9の、電楽段が観念とプロレタリアプロレタコア人民の娘大な力で粉弾し、文字港9の、電楽段が観念とプロレタリアプロレタコアトの様々な影乱の一つ一つを参問にし、止傷しつくし、九月新蕾を終明度今を

上げであり、

一切配めることが出

そして交、こうした非波の九月一月公剣を突破口に、今秋祭山闘争

の死刑判決による巡滅差別の強化 裁判にみられる強機的な差別裁判

并渡に繋終的な鉄桶を下していかねばならない。七月公朔に於いて、

これた穴点にわたる民間学者による徳定書を并波に採用させるか香かを巡って

の第二次触制執行阻止の願いは

|節左翼の攻字通りの死力を尽し | 次代敷行は、しかし、この置いを昨年九月の三里様歪山農民と高一犬。を失いながらやり遂げた第三

| 里塚勝民に対してとってきた「マ

の圧倒的成功を一層強力に克ちと 命謀略の嵐の中で、九・一六集会

B 52 常

駐

化·軍

事

演習粉

碎揭

大田の神代師となってシア・長崎 刺る悪部の上帯なりで、10分の一世の神代師となってから、第一関してもの様となってから、第一関してもの観光が観りため、中二、東に第一といるのだ。本から日神となって神能が、第一二、東に第一といるのだ。本のは神代をなる。第一関してもの様になっている。第一関してもの様になっている。第一関してもの様になっている。第一関してもの様になっている。第一関してもの様になっている。

それに返事をする前に

私の乗

します。この

一のものであることを示してい

スリカにおいても、はっきり

しばらく前、私は米国海狸にす。

特に職事の輸送を拒否する際 する置いとは、いずこにあろうす。 人の願いと、私自身の海猟に対す

反革命へ沖縄人民を動員している

反革命的統会ー目衝球派兵へ向け

ムへ向けて比較

た、警見滅村、瀬底島の反敗地主

国家行事

の機拠としてである。

よって何とか実践しうるものなの 料を輸送するという全く危険との 台のタンクローリーでジェットWを一時中止したまま、一日四〇C まかに「光田新国際交渉」総役

かられいる。オンメニの巨大な が果をもたしたものこく、実に ・年間にたなる回路がに様なった。 ・変かし、「ボロ・九月、難いの者 を要をしていた「最終な姿で」は できる数をよったに「最終な姿で」は できる数をよったに「最終な姿で」は できる数をよった。 の数権力が自からの「三粒の趣 9 16

「青行隊員の完全責任」のデッチー われわれば、かかる境力の反革一氏のである。しかもそれは、「川事件」の大謀略に他ならない。「川事件」の大謀略に他ならない。 て青年行動隊二七名を逮捕し、内一岩山鉄塔撤去に向けた、反対問題

めより

三里塚を闘う

総結集し権力の策謀を打ち砕け

五時日比谷公会堂

の長物」を推拗するため、毎月五。 完全に破廃し、その後の六月間港 の策励を具点的に粉砕し抜く願い の定該施設ー侵略反革命拠点構築 も全く立ち得えとなってしまった 昨年九月の強制代執行の際に今 さ、英雄さをはっきりと示してそ 開設の展婆の破滅が叩きつけられ 一層強國な反撃によって、プロレ民と、全国の限う労働者・学生の

こうした状況の中で、敵権力は 「悲歌」としており、何が何んで

岩山大鉄塔死守の臨戦体制を置

三月開端頃止に勝利せよく

人民大集会に

八月三〇日、日本共産党は、 関いのときは数々と追っている $8 \cdot 10$

断臓たる滋養をかちったのだいう **B22の再飛来、二週間以上に**亘

と自衝隊の連絡を計る「自衝隊沖と供に考えられる。更に在神米羅

数が大和人であり、中央直結の植 交沖機能会事務局の密課長の半 15 •

した非波の適告が、九月結婚を目とれに対して解放問題は、ころ

プロックを代表して野本中戦が発

集会の冒頭、高落松放開駅関東

汎な結集で置い抜いていく決意変

全埼玉祭山差別裁判科標共開会問 明があった。続いて孫言に立った

いを最先頭で肥い、糾弾共闘の強 (準)の間志は、埼玉における際

航空機がベトナム爆撃に飛び立 も交、全くのデッチ上げです。 な技術者なのです。 験争の報少

米国海軍に辞表を出した

々

買べ、ローマカソリック デラウェア州ウィルミント

1 関令を翻い抜き、狭口薬別級判料 が 賞を行い、「全国水平社の基命的 で

沖波の暴差を料弾してい

会場は、とった。七月の東洞包囲糾弾闘争った。野 からは「石川青年との連帯をかち

民の前にむき出しの療圧をかけ何 八月一五日の公例で明らかにな

八月慶争

無名の民衆の一人を支持して

れています。日本人が日本に 香します。 との日本で、 多くのって行くことに加担するのを拒

34) に乗組

ペギオリス カニー (ロマムー

一九七二年五月六日米海軍 |九七1年七月||三日獲軍

ことです。日本以外に住む場所

狭山差別裁判糾弾共闘会機の同志

が行なわれ、髪初に、全窓神奈川 言にひき続き、各支援団体の発言 であった。こうした州放同屋の発

井波密室裁 、二七東拘包囲闘争に決起

負った并抜は、豆動の概をきわめ の券職しか 許さなか ったのであ ブルジョアジーの飼持を一身に背 る糾弾を表れて、石川青年の同親

京都選、茶馬県連、そして大阪府 二十七日には、第三波の東河包囲一層の緊張をもち、ひき続き、東 の意義を踏まえ本日、そして八月

各株連の発育は、決定的な局面 「八月公列を総力で置い、彼く」と の成果を除さえ、更なる治療を交通の発育が行なわれていった。 関係を行い、そうした力をもって「著者それまり」と、「まっ」」という。

に組み込まん とする目的で

かく島について護すられる関係を さらなる目前の独海反しずめとこれでいる物帯関係が、密郷の産業・耐寒をは、ちたてとしての金融を破棄をもたらしているのある。那選業者の被逐にも5 形の金融を破棄をもない。 、特別に優遇することであ

鑑定を何度も要求し、「石田青年

五・三〇以降の殿階で、自己の、 が解からずに、一切が検定し切っ

下の名のである。そして父同時に「る闘いを貸職している石川青年といる石川青年との一番命職を剽窃せんとやっきになっ」囲糾弾闘争が、黎中九年間にわた

り、それ故、責任能力はなくには、精神異常の相当な疑い

び政治主義何に解放運動に対応せ 治権力の分与を要求し部議院 自己批判運動が確定し、動いの内の推断に求め、部議民によ

恋養民の自己権力獲得に設定して 職共肥会議・全部高校生部落研測治権力の分与を要求し部落解放を ない、会流和奈川教止受別委員会

全密神奈川狭山※別數判糾

機の行徳によって、アルショア政 | て、更に拡大させていかねはならの撤廃に求め、部落民による糾弾 | 我々は、今、八月公判額争におい

部務解放闘争を、封蹠的身分差別 な言葉を持ち出し、我人の共同反 中で破産を宣告されるや、

スティックな傾向や、行政闘争の | 歴史殿 (第) を映画な推進軸とめくといったアナルコサンジカリ | 看。そして全境玉秋は美見数例

外 ある。そしてこの過程は、利害のととの生活を破壊せんとしているのでとの生活を破壊せんとしているのでといい。 西路に常楽氏 こうして日幣は、共同反應命の れていくのである。

年を死刑から、赦ってい オロジーに屈服しつつも、 光取りする形で、ブルショアイデ てかけられている保安処分攻撃を 「精神除害者」や闘う人民に対し

りまえのことであるが)なる、そ ベネ疾山闘争の場に、「反革命事」

悪無限的な腰膊の中で、権力をひ

概争を広汎な労働者人民・

て我々は、第三版家拘包囲糾弾に

った全くの経済主義へと転落して

我々は、かかる人民戦級歌、革

の非妥協的な難いの場である

いる。 ったのと同様に、法廷内闘争にの た誤まった方針でしか聞いえなか 問題が過激派と結託」し狭山闘争 表々はプルジョアジー

荻山野寺の分断化をはからんとし いる日共を絶対に許すことはで た現代帝国主義の基本的動向を一 をして「侵略を内思へ」といっ

八月審理打切りー -十一死刑判決粉砕へ! 九月結審

たように、日帝は、自己の延命の 我々は以上で、明らかにしてき 企業労働者と中小企業労働者の対 帝国主義的社民の育成を図り、大

取り組めず、選挙の票田としてし 主養者の差別支配に対する難いを 関うポーズを見せつつも一切帝国

こうした日共と同様、社会党は

か部落解放の闘いを対象化できな

我々は

政関係における破敗をはっきりと い部分へと転落している。

の再観、硫化を釉としつつアジア

同様に、自称滅命後と言ってい

れ、在日朝鮮人や郊落民への途別 月結索が研、十一月売刑判決阻止へ」の総路談の下、断国として九 山麓争の大概能

独派の下、帝国主義の共同反義を 圧民族・人民と連帶し、蜂起プロ

9月結審-11月死刑判決粉码

部落民と革命的に連帶せよ 進行する日帝の 腐朽化ら闘

ねらなら いかねばならない。 おりなら いかねばならない。 かればならない。 | 放闘係を切りくずさんとしている| 拡大を行なうことにより、西汝鄉 、 ける打撃はおろか、国内向けの整一 と競合を強いられ、労米輸出におい と競合を強いられ、労米輸出におい

ない。アルショアマスコミは、狭し 日帝の腐朽化の進行と 更なる。落差別の强化 近答の居住区で生活が破壊されん ここには、火対打ち切ら、 全脳系地で盛別事件が激弱し、 とうわけ市落路集に対す

要經

日帝の排外主義に屈した 諸派の混乱を止揚せよ!

なっている。

一切の逃亡を含めてみいる。七・一五北領本現 もその破産が鮮明

を るのである。 を るが大をもって整理すんとしてい を るのである。

域内平和の確保と国内支配体制の

と知圧が強化されているのである 從って、我々の闘いの方向は、

光視略区基命へ向けた

に対して、有効な反撃を担機して

☆難聞点が多数発見され、今後の の侵略反延命を選行していくことったようにこの裁判をめぐる様々 郷、敗化を軸としつつ、アジアへ そのための国内権力再籍 第 主義にあっては対外的民族的抑圧 の 関主義的社民の脅成は、現代帝国 の 関土者の社民の脅成は、現代帝国 攻撃は域烈を極めている。

完きに、依機に瀕しているのであ 的世界体制の動揺と再構の中、真 といわれていたものが、帝国主義

の動員の一座業のうちの比較的安定した部門 帝国主義諸列翰における重工業

| とにより、解消させ、輸出の増大とにより、解消させ、輸出の増大とにより、解消させ、輸出の増大

着 さをもつ、窓窓解放闘争を、自派 ともすれば、そうした 共産党は、ともすれば、そうした 大産党は、ともすれば、そうした 概念主要へと転落させ、そ

沖縄闘争において、一切を選挙

国的な視野しかるたぬ彼らは、あ

たわも、純粋に奏士書が充張す、おこだらけの無勤をもって、新山 ・ たわも、純粋に奏なからたり、頼か二妻に展世していったっちに ・ 本のようと確めただされて、頼が主妻に展世していったっちに ・ なのようと確めただながのだし、悪すの歌は、他プロ主義でもかられている。

明治推断をプル民革命の不徹底

あ 苦八苦し、雑鳥は位置づけられず。 一 薬命路線と組合させようかと、四 は 業率せんと画像し、どう自らの こ 高揚がかち、斑られるや、、腫いをい苦髄を経て、狭山関争の大学的 **翻いを一て釣魚台の反逐命印制圧にみられ** 的 神話教育等の民族主憲の裁綱そし 日帯は、侵略以革命体制指領に 統合」の遂行は、帝国主義の政利いるのである。そしてこの「国民

方、 革マル派は、二年余に宣る長脚いていた承共同陶脈のうちの一

国主義者の寄たな差別強化攻撃と 解放の内的結合をはかっている 王彧の勝朽性=「差別と抑圧」 那熟鮮

石州一雄氏即時奪還

開港を阻止せ は中の売り物のパイプライン教授 しかもこれすら、あの巨大にそび える岩山大侠客を暴力的に経験し ある。 末年三月 開港は今や空港開 大きく飛躍させた。

展帯特徴本部は、九・一六「一周 たのだ。岩山鉄塔は、凱客法の選氏への凶暴な根拠である。事実、 として正当化する法的根拠を持っ までに全面解 決す ることを と | ることを了承したノ公団は、これる | 公団の要請に基いて『移転』/フす数 | 内に銭存していた「平和の塔」を 用をもって撤去しうる体制を公団 によって不完全な「宏雅」を宏雅 事族資粉砕胸帯の報告をな 発達! 反衝機線を先頭 とする 日本の兄 民激説、学生議教/ならびに七・ ンドボール大会は反対にあってている会沖機の基金的労働者、 農 意図的に繰り広げられている。 **陳武兵阻止、B52常駐化、米堰壌** よる豆葉命的統合と願い、アジア 反唇機線を先頭 とする 日本の兄|つにする形で寛ぶ工作を成し遂げ|三〜一五國等を責敬した、日本|時中止したのであったが会場を二 沖織反帯敷線より、八・十自衛 嘉手納基地闘 日帝に ーツへの自衞賞チームの参加等、助設工事、更には「神髪な」スポ

・ 大学のできます。 「大学のでは、大学のできない。 「大学のできない。 「大学のできない。」 「大学のできない。 「大学のできない。 「大学のできない。 「大学のできない。 「大学のできない。 「大学のできない。 「大学のできない。」 「大学のできない。 「大学のできない。 「大学のできない。 「大学のできない。」 「大学のできない。 「大学のできない。」 「大学のできない。 「大学のできない。」 「大学のない。」 「大学のな

判を

強

闘志から、練瘍高校における狭 いう決意表明がなざれていった。

ないし、

ビMFA ローレンス・E・ザンバニーニ一九七二 電八月二十日 私は何じています。 しあっている分野は他にないと

九五三年三月二六日代れ

収めている時に、押しボタン機

寒感されます。私は恍気技術者

以差別裁 判料弾の 全型実行委の

統一を克も取り、高手勒法地へ向「て「底長阻止、B兒常駐化粉砕、たその後接自の整会で整層な意志・れをはねのけゲート前まで接近し

ふりかざして弾圧してきたが、そ

歴良知事そのものは南北大阪岛の

れば明らかである。

Ⅰル大会への自衝隊チーム参加を 二六・二七日に行われるハソドボ

この戦争で、海獺が果た

とみてとれます。世界の反戦運 をなてとれます。世界の反戦運 とみてとれます。世界の反戦運

社共、人民党の返還論論常ばか

こして粉碗

す。長球になって流線を内側す。これは全くのうそっぱちないと考えている人 々もいいる後割は、たいしたもので

長隊になって流儀を内側が

リカの人民がこれば父級く連帯リカの人民がこれば父級く連帯

私のこれまでの行動を支持し

う盛夏の施政方針徴炎の一文を見、二六・二七日に行われるハン樹祭に躾として裕力していくとい や一切の寛ぶ工作、例えば、

である摩文仁ケ岳での復帰治念権 のである。それは、

し日米共間反英命を経済していく かかる事態にも示されるとおり、 被卸圧人民・「本土」人民と連帯 機速絡機械官事務所」の沙障等。

|ションを助めるや船構した伊衛吉・離を許さたいと通程を行ってきた一族とは、集会を責めいて最落して、 近隣止1の掛け河でデモソスレー「今頃の公利に対しても、一切の後」る。こうした非波の暴落に対する |賃載・場会提内を「野会器研、液」負った非波は、豆面の棚をきわめ||の参離しか 許さなか ったのであ 剣では、樹蜜家剣を受行し、弁護 ンを大きく流し、デッチ上げに加 山事件当時、石川紀人キャンペー

た現在、残る証人は、集敗都定人 山麓争圧殺のためのブレー足跡、時計の証拠調べも却下され 派キャンペーンを伴っただ 、そして封備のノリづけの問題のい適村、石川青年の蘇美智子さん 我々は、こうしたどとに明らか 派キャンペーンを伴った形での狭

うな幻想を流布せしめ、狭山壁別ら洒落の解放が行なわれるかのよ られるように、プルジョア的行政 措置法を制定したわけであるが、 形で、同和対俄密騰会答申と特別 一方での鉄和主義団体の脅威にみ 心とした腕いにより一歩脳服する

と競合する産業は圧迫され解体さ 収支改権と国民所得と経済の発展 っては、機出が資利になり、対外関税が適用されれば、後進国にと 企ての後巡国に、 物国主義諸列勲

一、我々はかかる日帝プルジョアジ 鍍金、分断せしめていくものとし るようにアジア人民と常悠思を、

を持ち込み、無四インターにまで ものであるべき願いのスローガン い 強要し、支持共闘会機の分裂を招 マル、中核、四トロといっ いているのである。

し、それが、我々との組締闘争の一切翅解していない誤った方針を出

が闘争との結合を我々の闘いの内 の破塵をはっきり踏まえ、 部落勝 - の破塵をはっきり踏まえ、 部落勝 -「帝国主義の顕朽化と願い、被抑 全国の同志語君!

を九月紹告影砕—十一月死刑判決連署し、全国的な糾弾闘争の爆発 九月全埼玉糾弾共闘会議の緒成 に向けて横鶴していかなけれ

りしと八月公剣闘争を、東狗包囲れたということである。我人はこ としてその事は、 室雷された 糾弾闘争を中心として大爆発され

適ったのである。

内敞—世 界基命総告

共 産 主 労 同 (戦 組 旗 織 派 委 員 会

を

「労働戦線統一」に歯止

掲する疾命的左変の七〇年代的**親**いの標頭堡とせんとしてきたのであった。それらはまた、兜の背藻 此を基軸とした全人民的政治課題に取り組む中で、六○年代後半の「反戦・全共闘」運動の関系を止 ・強化することによって蜂起、プロ狭潮流形成の見掛りとし、●これを沖縄支援粉砕・自衛院派兵間 零の運動的内郷とすることによって、●政治的統一総縁に関しては、八流を解体、再輔し沖共闘を整設

で蹇漢すれば、権力の多らゆる無圧をはねのけて武美闘争を撃持しつつ、歴史的他命を終えた「八派・・・として蘇ス出すことがみ、関われているのである。わが労働機機の闘いも終してこの例外ではない。 わが問題は、この間、●公林-非公然の意解印展期をもっての「気としての願い」を恒衡的武装闘 』に変わる者たな政治潮流を寝間として秘想させるとと、そして、これこそが、「八渓」の革命的伝 、かかる方向をあらゆる豪産辛苦をはねのけて、われわれは沙心欲いてきたことを確認しろる。か 統を継承し、その股界を止滅する革命的左翼の腕いの現在的任務の眼目であると主張してきたともい かる機能の上に立って強遽した地平をしっかりと断み間め、更なる治療を、まさに「共二歩」へのそれ いうる。そして、現在的に一直探的にとは、まだ十二分にとは決していえないけれども、結果的には

拡げ、また「酔部筒け負い」方式を脱脚せんと試み

マル生運動に対する労働者の反播を引き出

により、雰囲の枠を

第代通常側世界の再報の影響をもつに受け、転載さ そ、以下のわれわれの任業があるのである。 し、反合数すを微性させらし 類代通常側世界の再報の影響をもつに受け、転載さ な、以下のわれわれの任業があるのである。 し、反合数すを微性させらし 類という。

の許容-資本ペースの春闘 右派指導部の維持と賃上げ

帝国主義的労働主導の労働贻縁における民間労働連担導され、闘い抜かれたわけでは毛頭ない。いわば

いのであり、何かしら、真に革命时、かつ階級的に

体策動と、春闘

総評定期大会

に名をかりた労働戦線解

それは、春郷にいわば「枯木も山の販い」的色どり

戦権的にも四月決略が、四・二七で腰弾けになっ 動の抵抗を示しただけに過ぎない。

藍成の労働運動の流動・再稿をその要因とともに 本化するという、いわゆる「労働機經濟精=統一」

、っても、われわれにとって重要 の動向が触まり、これをめぐって既成労働運動指導

めは、その要因の分析であることはいうまで

あろう。そして、それはまた、当然にも歴史的 関は両者の力量を推し計る好機だからである。

品の価格(労働賃金)水準をもリー

枠を抜け出なかった(当然のことではあるが)とと 昨夏のニクソン・ダブルシェ七二番酌もまた、絵じて、かかる蹇闘スタイルの もが含まれているわけである。 上げは、七〇年代に入って高度成長のテンポ 的な対応を示したことを指摘しておかなければなら

の 李楽寺(不説の中できて) (日本) 「日本) 様 押しらった …… 養殖でとうら、智能が出来れた。 「本郷に対しているのだが、世ののから、大きなので描かし、大きなので描かし、大きなのでは、「日本) 様 でいった (日本) はいました

速、中立傘下の電機労団等とともに、労働四団体の させてきた。そして六四年には、総評傘下の映鋼労

書は、基マルのお手本としての協会派等にあっても「こるをえない重大な問題であるが改に、次に終郛四 と目に「資本」ているとけである。また民間運動指導、は今後のわれわれの間い方にも大きな影響を及ぼさらないたい」(中地質自鉄が協事務局及)、た婚性性の確立の中で一層歌作しているとして、それを表げてもらいたい」(中地質自鉄が協事務局及)、た婚性性の確立の中で一層歌作しているとして、それを表現してもの対立が、「可動戦」」」をめぐり前者の相対的的過程報告 だが、そのような衰闘の中にあっても、労働機器

無二をかって再奏を形じているには、中心観したは、下から、社会が、共和、活動である。これが、対しては国家の指する人が、という問題である。「中心を持ちているとは、中心観しているとは、中心観しているという。 「神人にはなるとしている」となって、「神人としている」となっている。「神人としている」「神んとしている」「神んとしている」」「神人としている」「神人としている」「神んとしている」「神人としている」「神人としている」「神人としている」「神んとしている」「神んとしている」 て民社党を支持政党として六一年に同盟会議も発足、認めてきたのである。 かませた総評44回大会

れらの好緒果を背景にして、いわゆる実践。を二分する帝国主義的労働運動指導部と民間運動指 るといえるのである。

つ人的にも固定化しており、疼険、大田の『変節』 ごねばならないだろう とも発生素盤は殆ど同じ「民主化同盟」であり、か 必然化させる時期にも丁度、遭遇していたとと も、いわば便宜的なものでしかありえず、両指導部 用するものでもあったが故に、賃上ご酌季の激化を

物の比較を、由一を続い、「労働部一」後の社会変を得るその訳。なされたのであった。またをお以「降の日本 経済の「零難における公司等、の公企供労働等の資金表生に深刻し、特がよくの回居別の40において、「改成を持つ自一たといえる。自居党で、女会党の合詞は、この年に、とは異立、公務員の資金を決定する人事院制造が 「高度成長」が開始された年でもあった。だが、か 反映し、また中労委における私鉄の賃金決定に反映

労働者の底流における流動を、わずかではあれ「反 ているのである。

それが一昨年の総評大会で確認された統一四瞬即 て、今後とも「労敗統一」問題が、一つの大きな焦 点をなしていくであろうことが十分に予測されるの 「労機統一」に護達することを意志統一した。從っ

総評-民同の地盤沈下と

あっては大きく贈かれており、境界教子のものが不 生まれるべくして生まれたのである。だから、そにも顕著でように、「左」から右への道は指導部に まさに春襲は、豊崎の唐級情勢の気約点として、 鮮明だからである。だが、実は、われわれにあって は一度、民間投導部によって方向性を与えられるや

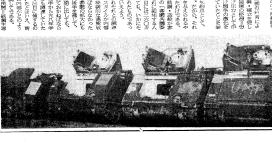
(19) 四十を除して、特な信頼の歯された年である。当時は、前途したような典析的な原準・終数が、いわなる「経済」を、全人がある。上の後に十名を、主ないというとに対してよるのである。とのないというとに対してよる。の前されたの、主意性あった。このは、漢字、全米数の目である。とのなったいとに対してする。前されたが、主がは一般である。とのなったいとに対している。

ともあれ、今線許大会は、線許に影響力を拡大し を着したいが彼にのみ、形式民主主義に依拠して、るといえるのである。 現代通 原次内部、 帝国・秦川県新国県でした | 国党 動向は、いたは、教授・不常な高質が発えに持ちい、美工・5の徳・男祖)あたるけどか、それはままれば、原次内部、 帝国・秦川県新国県の改造」は、たた横野数 ロドロなる建築したに比って、われわれば、以 高度度の原化型ともいうできていません。 とりの の質になった | 民族も国内の改造」は、たた横野数 ロドロなる機能したに比って、われわれば、以 高度度の原化型ともいうできていません。

ているのである。 して把握しなければならない。そして、それば、変、治院逐が接続を持ついるとして、それば、変、治院逐が接続を持つ自由」を主張し、「労敗発一」に一役を買っ、そ、むしろ欧米的な条件へと再編されていることと に、高度成長の

その点に関する分析 が主流を占めたことによるのである。 後退とそれを容認する民間指導部の経済主義的指導 高度成長の端橋。当におけるこの所得政策の

な内寒での賃金水準の国家王導の賃祉にあつては、 ともあれ、この時期の人事院勧告は極めて特徴的 -ス・アップの勧告を行わず、ただ資金側



写真の様に破壊しつくされている。 ベトナムの戦場から送られてき、修理を待つ戦車。

大阪りない機信をもって私も歌中 教労部発行の歌中獲得)による権 教労部発行の歌中獲得)による権 気風。が培われてきているのを感 フロ独派の全ポルシェヴィズムの また。全世界を獲得するために、 民志の殖団な、そして確信であり 猛暑の中、断乎として、そしてま 戦車移送を関止せより

人民の血

車輸送を阻止せよ あのミ

中村 信介

に対決している全ての繋外の同志 反英命軍事外が路線に接も減命的

増々鑑得化して来る日幣の共同

理由として、「運転状態から過激 あるいは警察は、市職員逮捕の

今や日帝の目の上のコブである 小費地区反帝教繹の同志の皆さ

の正当性を満天下に示したと思い 篩している。このことは日帝体内 派が盗んで乗り込んだと判断逮捕 いると同時に、人民の革命的暴力

あれこれ言って、

での動揺分子を数多く生み出して

せよ。市風社会は、「夏休み」で 出ていかんとしていることを機能と血を吸うために相模補給販から 血が付着しているのだ。そしてま 「報告に行くクランを戦かと勝った場合と、 の書を、頭は、されいる者では、動家での実際がは、地方などで の書を、頭は、されいる者では、動家での実際がは、地方などで ので、プロスタカーを対象をして、空の場の事態がは、地方などで かける情報には、「最後の集りをとなった」が、この間の事態がは、地方などが かける情報には、「最後の事態がは、地方などが かける情報には、「最後の事態がは、地方などが かける情報には、「最後の事態がは、地方などが かける情報には、「最後の事態がは、地方などが かける情報が、この間の事がは、地方などが ない、たった。「また」に、また」に、「また」に、「また」に、「また」に、「また」に、「また」に、「また」に、また」に、「また」に、また」に、「また」に、また」に、また」に、また」に、また。「また」に、また」に、また」に、また」に、また。「また」に、また」に、また。「また」に、また。」に、また 性を引き継ぎ移送を何が何でも阻 ベトナム人民の英雄主義と自己議 赤ヘルを構気派・諸団体に比し

ヴィキの登場ほど世界のプルジョ をロシア革命に体現したレー 子的社会主義と革命的ジャコバン

義の旗を高々と掲げている同志よ

何ものも恐れぬ、戦車に自らの足 ているのだ。プロレタリア国際主 も、ベトナムの人民は適日殺され 五・一三武装遊業総を開い抜き

光明を与えたものはなかったであ を吸う戦

-- ト人民・被師圧人民に勝利への

る 今とそ、レーニン・ボルシェヴ マスムの再生を/

ェビズムの再生を N シ 泉 撃は階級社会を止掘するまで た。だが、しかし、プロレタリア

 ν

1 = ン .

ボ

かノ(編集局)

拡け、韓国なものにするであろう。全国の闘う労働者・学生・市民の物さん!五・一三闘争敷中戦士と聞く運奮し、今致闘争の大優務を覚ち取ろうではありません ね起し、懸中國争を断導として實徴している。相模補給階級体上教育版出集力限止關予を突破口に、今秋親委は、五・一三関係の切り拓いた地球を必ずや恵におし 全国の関う労働者・単生・市民の役さん!沖縄返漢菩仰闘争を五・一三箱田武炎遊撃機闘として唯一闘い抜いた反称幾뙞の戦士遂は絶力の処死た唯圧を新然とは

しかし、レーニン死後、ボルシー

獄中からのアピー

び全プロレタリアート人民・被抑|蓋なきテロリストの経派的な贈いる売曲と、世界体の必接折は、再|蔵・並民態液をおしのけ、共産主。ヴィズムのスターリン主義によ|耳住薬される、排外主義・民族主。 人民・被和圧人民の及業・政 を止拠し自分たちでは腕い得ない

が改に、関う者の後ろから攻撃を

ケ集団を粉砕し、被抑圧民族・人 | 残暴粉砕! 秋風寒還!

内戦ー世界革命験争へノ

全ての際圧に拓し、共産主義の 帝国主義の共同反革命を蜂組・

獄壁は人間の尊嚴 見せている。重化学工業に変る新 国拡大化としてしか新果のないこ 存在でしかない以上、矛盾を解決 もなく、金融・資本―独占・資本が あくまでも超遅利潤を追求する。 たな産業分野を展認しうるわけで うることはありえず、公審の全 内部にされ、新全国

って、環境庁が反対表明しだして 必要下、コンピナート確認をめぐ 後な「対立」が遅れており、奥児 列島改造を押し進める部分との除 総合開発計画を進めてきた部分と いるのである。) ある。(勿論、補見的には行きて 断することが何よりも重要なので ジアにおける革命主体と中間を分 に譲歩したとしても中国を管理に

IV

日米共同反革命と対決し

叛軍・反基地闘争の高揚を

米軍の職場があの英雄的なベトナとを明らかにしたのである。まず

府はこの擁護者である」というと

日米両支配階級にとっては、瞬

|の幾行的使用等策事外差路線の飛 | 間復著が急ピッチで進行している

か月ぶりに再開された米津戦車義 る。信号無視—構梨の車両制設会

が「国内法」など「切無視の贬人」道一大号線から横須賀に輸送せん

条件=橋のセンター・ライン部分としており、一九日には『特別の る。今では横浜市道を選過せず国 車が輸送されないことは許され

東そのものであり、 更にこの 験送 ム人民の聞いを、直接圧殺する機一

パクリ「解決する」以外なのでき

な

閉じ込め得ぬ!

するものではなく、あくまでも、 同反延命や統一的世界市場の「鴉」将、プラント験出が開始されんと 「経済的独自和害の強調」は、共 ならば、「対米対等の立義」や 更に、外変数像上について見る 「おくってに、現在、「円・空間を 美年 日本保証・機能・加速でした。」 「単一」のでは、日本行の経費・四、準一工の機能がある。「十十二、十十二、機能の工程があるの場合では、 「利・アン)、参加に関係的に人ど、の発音を見るがある。「十十二、十十二、機能に対象する」、「日本行の機能」、 「利・アン)、参加に対象では、日本行の機能がある。「日本代理・機能・対象では、 「中、アン)、参加に対象では、日本行の機能がある。「日本代理・機能・対象では、 「中、アン)、参加に対象では、日本行の機能がある。「日本代理・機能・対象では、 「日本代理・技術を対象では、 「日本代理・大学を、 「日本代理・ 中国市場開発を担う まりつつある対米貿易に対して、

○ | 日中間被倒覆後に なる立場 〈の近端の微鏡/人を到着に入 〈思の広説法〉。 「日中間被倒覆後に なる立場 〈の近端の微鏡/人を到着に入 〈思の広説法〉。 す。 後端 「近端 「大阪」」 と 「大阪」」 る主張(実は中国共産党との対立 **巻って、民社、公明、社会の如** いよ東南アシア(東アシア)諸国

た とか「進歩的」などと言えるもの 的 ス 交回復なる路線は、「平和外交」 対中政権における、日中国 年 和客があり、この強化の範囲内で 。つまり、人気とり的欺瞞がそこ

選 に、痩れを知らぬ寒命へのパトス がた から行くんだ』と言う彼の臓の中た から行くんだ』と言う彼の臓の中の 場合を離さました。「今日もこれ に

の类を異、圧倒された思いでした

長期的な機関を射程にした。その の「豊主」たらんとしているのでによるいちゃもんづけ) は、との 「拳にアジアにおける共同反逐命

共同使用、沖繩器手納基地日配常 能化の策動、等を中心に、日香米

| 夢にアシアにおける共国反革命 銀商車乗券・出第十週間 | 自衛隊 は、横浜市当局が「巡路法・車両ジアからの相対的縁退に伴って、 具体的に限るならば、相機原米 形で完全に粉砕されている。これ

ブル使用と自衛隊の『返還』 基地四次防一五次防計機米無基地の

が難いの勝利の一因をなしている

車職送が不可能な状態が生みださ

強行権送は、地域住民に計り 無視、更に最音をたてての深夜の 現在「車両制災令」の権と革命
東に「米郷戦車輸送に関しては、 りけた結論で、輸送銀行を正当化 ごくゆるい速度で走ること」

A5版210頁 400円

郵送料 110円 N

の再編 \ \ \ IMFの崩壊と現代繊渡期世界

七〇年代労働運動の更なる推進の 整 俊会

可倒者組織委員会

米共

で、緊急の時はヘリコブタイで)
コンテナー整場では、コンテナーをあげ、米嬢がまず中味を高く、
日本の発業員に中味をとり出させるのであるが、ペトナムから来た

む岩い寒臭を放つ。

する、

・

・

の | 家に多大の波響をおよばした。 | 坂素ガスは、今でも置いてある

雪も基地周辺の住民に大きな苦痛

医薬品から着 種に いたるまで、この補給廠は、武器弾薬の他、 貯蔵、補給を行なっており、常時総場で必要な一切の物資の認識、 歩資材は、 ここに振められ、 イン 東京・神楽川の重工業地帯を有しなえ、ライフル鋏、手権 弾を東京・神楽川の重工業地帯を有しなえ、ライフル鋏、手権 弾を ものもあり、 道APO戦車と呼ばれ、標準装備 の他に火焔放射器をそなえている ヘリコプターでも運搬できる。 普 M112の方、アルミ製で軽く 水陸両用である。

政府戦車輸送を認める

自衛隊の出動も公然化精

更に推進させ、帝國主義領隊

送の構送装置があり、これは、補一は、入荷するとGにおかれ、修廻が、その他に、相模原一ハワイ直 総章(M48、M41、M1TS) 戦車(M名、M4、M1TS) (月平均五○台)、他にM113 検査は、問題になっていた一三 ・ 大百台 悪行業件を明さらかにした。 検査が行なわれた の橋について、横ゲタ、床板のそ一させ、敗退を続けるインドシナ反 れぞれについて、耐荷重量の精密

ウエープ発信施設が完成して

光生三戸に、マイクロ・ いの資材をかかえていると

とに分類する。できるものは6・ レーラーに乗せたままではわたれ、改造できるものと、できないもの 尾張屋橋、塩田橋、塩田ಣ橋はト ないので、一たん橋の手前で、 道路の舗装が終っ を自走させれば可能、❷大江橋は┃何時何如なる時にでも出動できる その結果、●横浜市内にある、 から映画をはずし、 とにより、日米共同の贬残命をは で必死にはからんとしているーこ と示したのである。

逍遥することができる。

|❷に移し、できないものは、民間|

絵関係の通信に用いられ、今何が

5不足かを即時連絡し、すぐ

止闘争が、反帝戦器週間団を先頭

民間業者は、ここで解体しても

ところで現在、戦車輸送実力阻

に、適日連夜闘い披かれてい

ンな戦車がどのように修理

傷発事故が起こり、下請労働者が

総体しにくい (解体の ため、 | ままわたることができるが、一種 | 合でも、水害、火災、戦利官の令 一台づつで、防速十六以内で橋の 鉄板を敷いてわたす、●残りの橋 に概んだ。 近によれば、重景制限をこえる場 残りの橋。 すなわち、車輌制限をこえる場 という情喝をかけてきている。 の機送を許可し、更に目衝隊が、 限令の特別措置によって米寅歳率 また、外務省は二一日、斑顆制

状執行、自衛隊の防衛出動、治安 出動と、これらの漢書・訓練に使 **巾する康朝の出勤等、一六項目の**

中央を通ることとし、その間は、

米共同の反逐命を暴露していくこ

施命戦争を前に、その延命を共同 を交通止めまでして、晩恵を輸送 相模補給廠 0 Q 0 大江權 、 横須賀^ **()** 横須賀 基地 軍施設 0

> 政府「公団は、全のる危険も確み 完全に破綻せしめられている現在働者、学生、住民の力によって、 イプライン埋設工事が、英命的労た。ジェット燃料験送のためのパ

3、国鉄貨車―タンク・ロー

吹き飛ばし増え階級的情報を得て「じこめたり、揮えつけたりするこ」派遣減のデマゴギーを木郷巻鷹に「又やも続も香守も人間の理念を聞 献中の同志はペンを持って

ます。「人間が理念なのであり、 し差めなければならない! と。 より一層の自由に向かって前進す 及ばずながら連帯すべく、1中間へ 一般に対する身敢と身故は人人が 一数外の間窓の血の浄む 呼いに る時自らを変える力となりそれは一争を規律ある日々の中に断で食物 だから人々は自分の象徴であり 身一体のベールを知げく 国家―裁判所―整察機動隊の1 永山則夫・石川一雄氏等金で 差延を全人民的政治機器の演繹

戦斗車テスト

0

才5通用門

15号

\ П \

25日発行

 $^{\Lambda}_{V}$

相模原駅

を目蓋の悪に強く焼きつけました

統一公利 勝利ノ 願いある

のところに属くのだ。燉糜ちカン、とを決奪表明したいと思いるす。「岩壁の中に到達し、滓敷から入々」し、駿栗復帰をかちとって含くと

ギーをもって、社会資本の増大を

叉、田中の「産業発展のエネル

(1面より続く)

|体] (これと一体の社共)の関い せんとした、相様原市職員が逮捕のみ抵抗せん とする「革 要自治」を越え不法である」として、調査 いかに極悪、非道であり、日本政 の膜原性を、一般脱的な難いによっ とはいえ、この願いは「米壌が 米理戦車輸送に対する彼らの決意 と、その反階級別性格をみて に向ける地面制限二〇トン

\ П \ 新しい方向 七〇年代

V V \(\frac{1}{V}\) 非公然軍事の党と規律にいて

AIF二回大会から三 (総括) 一回大会へ (影響)

\I V 第 二部

沖青同・沖縄人民との更なる連帯を

レーニン民族理論の総括 野田

\ \ \ \

そのニーー「何をなすべきか」ノート 米目 強調レーニン主義党の諸原則とは何か

恒常的武装闘争論路線の総括と 恒武闘争の陣型の構築から激動の 争を真紅の糸で貫ぬけ! 非公然軍事戦闘を拡大し、 は体刊し三〇七号は九月 都合により八月二三日号 三日号といたします。 -- 一九七一年問題活動の政治組織総括--沖縄競争と帝国主義の腐朽化との聴いー― 第 び (總班班) 中央委員会 部 (機應巡) 中央委員会 て粘り強く置い抜いていかにけれ 【編集局】

を逆手にとって、自衞族の出動を われわれは、かかる社共の批判 的に対決し、振電ー度推地闘争を も公然化せんとする権力に、後医 (0) 549落下华岩联宣告 @ 7 0 oz Os コンテナ関係 П 矢部駅

料理闘争も今秋闘争の重要な闘い る実力医学を展開していかなけれ 連帶の目的意識性の下に、断囲た 英雄的なベトナム人民との革命的 「国塚宮海来年三月翔港を浜定 田中政権は、閣議決定をもの 交、三里塚贈等、狭山参別裁判 母ペトナムから来た戦車震場(ペトナムーノー ●棚包工場、小笠、梅関统修理工場 *弾薬処理団(解体不能戦車を爆破) **必然空模鐵電波発信所** ベル年八月常時五百台以上 スピアー一六号線―補給廠―ノースピアーペトナム)

変」を見すえ、なによりも、あの ば、全く何の願いも取り組めず、つも、政府の法的規制が変化すれ 権力の補完物化する、彼らの「本 ことは、当然なこととして おれば、このとき当然強行される 本年三月フライト・チェック (検 による路上代替輸送を決定したの

お

ゎ

内実をかけた醜いとして経対に敗 「被却圧人氏・民族との結合」の 「被却圧人氏・民族との結合」の の策動に新国対決していかなけれ

井波の九月結番、十一月死飛舞来 川青年に対する死刑判決とし 行されんとしており、この戦争を 更に、狭山差別裁判は無実のとり組む必要がある。 岩山鉄塔破壊攻撃に対して

●東戦車M48億理工場(五〇台)